はじめに

本書は既刊の『英語×「主体的・対話的で深い学び」— 中学校・高校 新学習指導要領対応 —』（以下、『英語×「主体的・対話的で深い学び」』）の続編の一つです。

『英語×「主体的・対話的で深い学び」』では「主体的・対話的で深い学び」を生徒がどのような授業実践のもとで達成できるかを、学習指導要領に沿って、授業実践の様々なあり様を示しました。これには 2 冊が続きます。それは、中学校編である『中学英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL』（既刊）と高校編である『高校英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL×PBL』（刊行予定）です。

それぞれは、「学習指導要領」、『学習指導要領解説』（以下、「解説」と書くこともあります）、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、評価資料）を土台に、「教科書で教える」授業の様々なあり方を具体的な授業案を使って提示しています。中学校編では、CLIL、ICT、UDL の視点も提示しました。高校編では CLIL、ICT、UDL に加えて PBL の視点を、どのようにしたら授業に取り入れられるかについての授業実践のあり方をより厚く提示します。これらの授業実践は、本書と同様に、普段の授業ですぐれた授業力を発揮した、または発揮し続けている著者が、生徒たちに「主体的・対話的で深い学び」を自分のものにしてほしいという願いを込めて、渾身の力を込めて書いたものです。

では、これらの 3 冊と本書とはどのような関係になるのでしょうか。本書では、中学校と高校の英語授業について、学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」にも対応できる英語授業実践をサポートするための「様々な目的の授業展開」と「すぐれた授業を実現するための授業実践のツボ」などを提示しています。それらの提示が、英語授業の更なる高みへの突破口となればと思っているからです。それでは、各章を具体的に概観しましょう。

Ⅰ では、日本の教育には何が足りないかを考えました。「教育、教育、教育の日本に！」について皆さんとともに考えたいと思います。元関西大学教授の齋藤榮二先生は、日本での英語教授法のあり方を問うて「英語教授法愛国宣言」（齋藤、1978、1979）を書かれました。もう何年も前のことですが、研究室でのいつもの「雑談」で、先生はその論考を指して、「あんな勇ましいものをよく書いたものだな〜。」としみじみとおっしゃっていました。それに勝るとも劣らぬ気概で「教育、教育、教育の日本に！」が書かれています。

Ⅱ では、「求められるパラダイムの転換」という大きな書き方をしましたが、ルーブリックをどう活用すれば生徒を伸ばせるかについて議論し、指導と評価の一体化について考えます。次に、日本語とは異なる英語とその異同を敏感に捉えるためにも、異文化理解教育の視点を少し考えます。

Ⅲでは「様々な目的の授業展開」を各 TOPIC で提示します（TIP を明示している TOPIC もあります）。

まず、小学校、中学校、高校の流れの中で英語教育を考える視点を大切にしたいので、小中と中高の接続を考えました。次に、授業の基礎・基本のあり方、さらに統合的な言語活動及び ICT の活用術をおさらいして、直読直解を取り上げた上で、英英辞典を使っての授業を考えます。また、「正確性」を重視し過ぎて学習者の主体性を伸ばしきれない指導ではなく、「流暢性」を優先して、主体的に 4 技能を伸ばす「多聴・多読・多話・多書の指導」を扱います。続いて、実際の「主体的・対話的で深い学び」の授業のあり方を「総合的な探究の時間」とスパイダー討論との連携で考えます。最後に、教科英語と、中学校の「総合的な学習」と高校の「総合的な探究」の接続を、PBL と協働学習の視点から考察し、探究の指導を教科に活かす方法を模索して締めくくります。

Ⅳでは、「主体的・対話的で深い学び」の授業では「ここをもう少し推したい！」という 4 つの視点の TOPIC を提案します。

・高橋昌由の授業：基礎・基本から CLIL & TBLT の深い学び
・米田謙三の授業：ICT を活用した STEAM 教育の英語授業
・田中十督の授業：授業デザインに裏打ちされた音声指導
・溝畑保之の授業：ラウンド制とワードカウンターで育む「主体的・対話的で深い学び」

Ⅴでは、Ⅳまでを振り返りつつ、読者の皆さまによくお分かりいただきたいことをお伝えしています。

本書と、『英語×主体的・対話的で深い学び』、中学校編である『中学英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL』、高校編である『高校英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL×PBL』のそれぞれが、中学校及び高等学校での英語指導をより良くしていくためのヒントと、さらにはいつの世にも色あせない指導のあり方を提供することができればたいへんうれしく思います。

最後になりましたが、常に辛抱強く煩雑な校正や索引作成にご尽力いただきました社彩香氏に、ここに衷心より感謝申し上げます。

2023 年 8 月

高橋昌由

本書をお読みいただくにあたって

本書の本編はⅠからⅤまでです。

本書には、文部科学省が著作権を所有する著作物からの引用が多数あります。例えば、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語編』や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　外国語】』がそれに該当します。引用文献にはその出典を明記するのが通例ですが、例えば『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語編』につきましては、それからの引用であることが容易におわかりいただけるであろう場合は、紙面の都合上、その記載を控えさせていただいている場合もあります。また、引用文献は巻末に所載しますが、参考文献等は本編に所載しました。

なお、説明の簡略化のために、略語や記号等を使っている場合もあります（例えば、Universal Design for Learning（学びのユニバーサルデザイン）を UDL で）。また、図表についてオリジナルがあるものについてはその情報を明記しましたが、筆者作成によるものは記載を省略しました。

目　次

はじめに …… *i*

本書をお読みいただくにあたって …… *iii*

I 英語教育のために：「教育、教育、教育の日本に！」

教育に積極的財政出動を …… *2*

II 求められるパラダイムの転換

1. 生徒を伸ばす評価：発達モデルによるルーブリックの活用について …… *6*
2. 求められる「異文化理解」教育 …… *12*

III 様々な目的の授業展開

1. 小中と中高の接続 …… *16*
2. 授業の基礎・基本：易から難のスモールステップ、UDL と支援 …… *19*
3. 「話すこと」と「書くこと」を中心にした統合的な言語活動へのヒント …… *26*
4. AI Chatbot の登場と、ICT 活用による語彙・文法指導の拡充及び DDL の可能性 …… *37*
5. 直読直解と中高生の英英辞典活用の奨励 …… *42*
6. 多聴・多読・多話・多書の指導 …… *48*
7. 「総合的な探究の時間」とスパイダー討論との連携 …… *61*
8. 「総合的な学習の時間」から PBL としての「総合的な探究の時間」へ …… *74*

IV すぐれた授業を実現するための授業実践のツボ

1. 高橋昌由の授業：基礎・基本から CLIL & TBLT の深い学び …… 80
2. 米田謙三の授業：ICT を活用した STEAM 教育の英語授業 …… 92
3. 田中十督の授業：授業デザインに裏打ちされた音声指導 …… 100
4. 溝畑保之の授業：ラウンド制とワードカウンターで育む「主体的・対話的で深い学び」 …… 109

V よりよい英語教育をめざして

引用・参考文献 …… 131

索　引 …… 133

執筆担当 …… 139

執筆者紹介 …… 140